

同友会だより

vol. 14 2021. 3. 10

発行：在日韓国良心囚同友会

韓国「第2次過去事件究明委員会」の進展を！

在日韓国良心囚同友会・代表 李 哲

同友会の友人の皆様。

コロナ禍のなかで不安な毎日をお過ごしのことと思いますが、新春を迎えて同友会よりご挨拶を申し上げます。しんどい日々を送ってこられた皆様に平和で安心な日常が、一日も早く戻りますよう、お祈り致します。

韓国では昨年4月の総選挙で圧倒的な勝利を収めた与党「共に民主党」が今、民主改革を着実に推し進めています。文在寅政府の今一番の課題は「政治検察党」と化し、民主改革を阻んでいる検察庁を根本的に改める司法改革です。国会議員や検察等の高位の犯罪を捜査する「高位公職者犯罪捜查处」（公捜処）も、新たに出帆しました。

また過去の不当な事件を再調査する「第2次過去事件究明委員会」も、いよいよ春から動き出します。現在、再審を申請して闘っておられる在日政治犯の方々も数名おられるので、今年中に皆様に無罪判決の嬉しいお知らせもできると思います。

最近、朝な夕な、私の頭に浮かぶ歌があります。「クナリオムヨン」。その日が来ればです。

「一夜の夢ではあるまい、長い苦労が終わった後に。

兄弟の輝く眼、熱い涙。ひとすじの川と流れ、

きつかった汗粒とともに。

広い平和の海に、正義の波があふれる夢。

その日が来れば、その日が来れば。

兄弟の懐かし顔と顔、辛かった思い出も。

ああ、短かった青春も、虚しい夢ではあるまい。

……中略……

ああ、血が滲むほど待ったのも、

虚しい夢ではあるまい。

その日が来れば、その日が来れば。」



▲韓国「11・22事件」45周年・市民の集い
(2020.11.29 於：東成区民センター)

私たちは、昨年（2020年）11月に「11・22事件」45周年を迎えて、感慨深い集会を持ちました。

45年前に軍事政権の生け贄とされ、無力だった私たち。しかし救援運動を一生懸命して下さった方々のお陰で、私たちは数年、十数年の獄中を耐え抜き、今も皆様とともに前を向いて進んでいます。私たちの歩みは韓国の民主化運動と歩幅も行き先も全く一致しています。

私たちは集会で、そのような思いを参加された方々と共有することができました。

昨年の12月に私たちの仲間、映画「自白」の主人公である金勝孝氏が急逝され、今年の2月には長年民主化運動の先頭に立って来られた白基玩先生と、横浜の鄭敬謨先生が亡くなりました。私たちは亡くなられた先生方に恥ずかしくないような生き方をしなければと、今また心に誓っている次第です。

今年はコロナも終息し、皆様にとって素晴らしい年となりますよう、祈願致します。

2021年春3月

在日韓国良心囚同友会代表 李哲 拝

＝韓国「11・22 事件」45 周年＝

韓国民主化運動の現状を共に考える 11・29市民の集い

2020 年 11 月 29 日、東成区民センターに在日韓国政治犯救援運動を担ってきた 40 人が参加して、11・22 事件から今日までの韓国民主化運動の歴史と、今後の課題を確認しました。

「学園浸透スパイ団事件」（11.22 事件）は、ソウル大学校などへ日本の、主として関西地方から留学していた 20 名近い在日韓国人らが「北朝鮮のスパイ団」であるという国家保安法違反の容疑で中央情報部（KCIA）によって逮捕され、起訴された事件で、16 名が裁判で死刑を含む有罪判決を受けるなどして収監されました。

「11.22 事件」から 45 年を経た現在、ねばり強い再審への取組みを通して、かつての死刑、無期懲役を含む少なくとも 36 名の在日韓国政治犯が、再審無罪判決の確定を勝ち取り、それらの判決における事実認定などで、事件そのものが当局の厳しい拷問による捏造であったことが明らかになっています。

集会は、はじめに在日韓国良心囚同友会代表の李哲さんから、コロナ禍の中でも「11・22 事件」から 45 周年を迎えた意義を参加者みんなで確認しようと挨拶がありました。



「5 年前の“11・22 事件”40 周年には韓国からも多くの人々が来日し、日本で救援運動に結集してきた人々が共に参加し 300 人の集会を開催しました。また、救援運動の中で歌われた歌集「クナリオンダ 韓国政治犯・家族の声を聞け」の CD が制作されて、表紙に映っている写真の当事者の名前を 45 年経った今日になって、韓国に留学中の李東石さんが探し当てた」という感動的な出会いの報告がありました。【6 頁に関連記事】

続けて、当初講演を予定していた金元重さんからのボイスメッセージ「大阪のみなさんへ」が紹介されました。

金元重氏は懲役 7 年の判決を受けましたが、2012 年 3 月、ソウル高裁で無罪が確定しました。元千葉商科大学教授です。金元重さんは「ろうそく革命」の歴史的な位置づけを考察しています。

「1960 年 4.19 は韓国現代史の中で唯一“革命”と呼ばれています。一方、1987 年“6 月民主抗争”は、韓国民主化の分水嶺をなした大きな闘争ですが、“民主抗争”であって“革命”とは言いません。2016 年 10 月から 17 年 3 月までの厳冬を貫いて闘われた“ろうそく集会”、多い時には 200 万人以上が結集して“朴槿恵退陣”を叫んだ。これを“ろうそく革命”と呼ぶのは妥当だと思いますが、私が注目するのは“主権者革命”という概念です。

“大韓民国は民主共和国である”という憲法第 1 条から始まり、主役は国民でした。それは主権者としての自覚でした。ろうそく民心を受けとめろと命じたのは主権者の威厳でした。意外にも最初の主人公は“中高生革命”の旗印を掲げた青少年たちでした。それ故、“有権者革命”と呼ぶことはできません。わが国民が“主権者”としての確



目次

- 新春のあいさつ（李 哲）1
- 「11・22 事件」45 周年市民の集い報告2
- ボイス・メッセージ（金元重）3
- 復刻版『クナリオンダ』（李東石、李宗樹） 6
- 《追悼》金勝孝氏の急逝を悼む特集7
- 布マスクへの「お礼状」紹介12
- 追悼①：鄭敬謨先生逝去を偲んで14
- 追悼②：白基玩先生逝去を偲んで15
- 映画になった韓国の情報機関・KCIA16

信をもって、民主共和国の主人公として自己の姿を示す過程として、私は理解します」。

金元重氏は今後とも「ろうそく革命」の全体像に迫っていきたいと述べました。【3 頁にメッセージ掲載】

さらに、元在日韓国人政治犯の康宗憲さんが急遽講師として、「2016 年－17 年ろうそく革命」の歴史的な意義づけと題して講演されました。

1975 年当時の軍事独裁政権の下で、不当拘束から今日までの 45 年間にわたって韓国民主化闘争の歴史と、今後も続く統一運動への課題についてするどく追及する講演でした。

在日韓国政治犯の再審運動で多くの人々の協力があって 36 人の再審無罪が確定しましたが、今



現在も再審裁判中や裁判の開始を待つ人々がいます。まだまだ在日韓国人の政治犯の一部の人々の再審無罪が確定したに過ぎません。

今後も韓国民主化運動に連帯して、全ての在日韓国人政治犯の無罪確定・名誉回復まで共に頑張りましょう。(住谷章)

ボイス・メッセージ「大阪の仲間のみなさまへ」

金 元重（元在日韓国人良心囚、元千葉商科大学教授）

皆さん、こんにちは。東京の金元重です。当初の予定では集会に参加して講演をおこなうことになっていたのですが、コロナ禍の第 3 波の影響で大阪行きを見合わせ、ボイスメッセージをお送りすることになりました。内容としては「11.22 事件」45 周年を迎えての私の感慨、そして当初講演を予定していた「2016－17 年ろうそく革命の歴史的な位置づけ」について、ごく簡単に私の問題意識をお話したいと思います。

11.22 事件 45 周年を迎えて

早いもので、2015 年 11 月 22 日、大阪で開催した「在日韓国人政治犯とあいつぐ再審無罪判決の意味を考える 11.22 市民集会」から、はや 5 年が経ちました。

韓国から咸セウン神父をはじめ多くの方が参加してくださり、素晴らしい 40 周年の集いを持つことができました。また、私たちのこの集会は、この後に触れる「ろうそく革命」との関係でも、じつは小さくない成果を生むことになりました。何かというと、取材のために韓国から参加した「ニュース打破」の崔スンホ PD が、韓国の空港の出発ロビーで出発を待っていた金ギチュン元大統領秘書室長を偶然発見し、金ギチュンが昔、中央情報部の対共捜査局長だった当時、「11.22 事件」の捜査責任者だったことをつかんでいた崔スンホ PD が、この機会を逃してなるものか、と言わんばかり突撃インタビューを



▲韓国「11・22 事件」40 周年・大阪集会での金元重氏（2015.11.22 於：浪速区民センター）

試みたのでした。

40 周年記念集会の会場で、75 年「11.22 事件」が発表された当時の古いニュース映画とともに、つい 2 日前のその空港での突撃インタビューのありさまが映し出されました。崔スンホ PD に同行していたカメラマンが撮ったのです。はじめは、こやかにインタビューに応じていた金ギチュンが、「あなたは在日同胞留学生スパイ団事件の時の中央情報部の捜査責任者でしたが、今その被告たちがごくごく再審で無罪となっています。どう思われますか？」という問いに、さっと顔色を変え、インタビューに応じることを拒否し、トイレに逃げ込むさま。それでも崔スンホ PD が待ち受けて執拗に回答を迫る緊迫した、衝撃的な場面が映し出されました。

じつは私は、その前々日、東京で崔スンホ PD たちとの夕食の席で、ソウルの空港での金ギチュンに

対する突撃インタビューのことを聞いて、「韓国のジャーナリストはすごいなあ」と感心したのですが、2日後の大阪の会場でその場面が映し出されるとは思ってもいなかったもので、映像を見たときには思わず息をのみました。

しかも、私は金ギチュン元大統領秘書室長が11.22事件の捜査責任者であることを初めて知り、75年11月22日の「学園浸透スパイ団事件」の発表をする若き日の金ギチュンの姿がニュース映画に映し出されているのを見て、画面にくぎ付けになりました。

その時の衝撃について、『週刊金曜日』（2015.12.25）に「維新独裁の残滓が、いまも民主化勢力とせめぎあう韓国ー11.22事件から40年」と題して短い文章を書きました。その記事を読んでいない方が多いと思いますので、お手元にコピーを配布してもらいました。見出しの右下に朴クネと金ギチュンの二人の写真が載っています。

記事の後半部分で私は、「11.22事件」と再審無罪に関連して、「国家の過ちを司法府が認めて無罪を宣告するだけでなく、裁判長が謝罪したことは高く評価できる。しかし、事件捏造の真相究明と責任追及という点では、課題は依然として多い。何より当時の司法府や捜査機関の過ちと責任が問われなければならない。それは直接被疑者を拷問し、虚偽自白をさせた中央情報部や保安司令部の捜査官だけではない。…そうした検事、判事も問われるべきだし、さらに事件捏造を実行した権力上層部の責任こそが追及されるべきであろう」と書きました。

その時は、写真の二人が、二人とも監獄に入れられる日が来るとは夢にも思っていませんでした。しかし、ご存じの通り、「2016ー17年ろうそく革命」の過程で、朴クネは国政壟断の罪を問われ、弾劾され大統領を罷免され、現在刑務所に収監されています。金ギチュンも、いわゆる文化人ブラックリスト

作成問題で有罪判決を受け収監されました。

金ギチュンの罪が暴かれ、追及された背景には、崔スホPDの空港での突撃インタビューのビデオが、韓国の様々なメディアに繰り返し放映され、かつての罪悪が広く知られることになったという背景があると、私は考えています。



例えばSBS（ソウル放送）の「それが知りたい！」という調査報道番組で、金ギチュンの過去が、中央情報部での拷問指揮をはじめ詳しく伝えられた時、SBSの記者が大阪に来て李哲さん、柳英数さん、私などにインタビューをしていきました。私たちの11.22事件40周年記念集会がなかったら、崔スホPDの取材来日も、空港での偶然のインタビューもなかったであろうことを思うと、罪状は異なるとはいえ、「ろうそく革命」で逮捕された金ギチュン有罪確定は、運命的な出来事のように思われます。

「ろうそく革命」の歴史的位置づけに向けて

「ろうそく革命」は、いわば同時代の出来事として私たち自身がつい4年前に体験したことですから、具体的な経過と内容は、ある程度共通認識があると言っていいと思います。しかし、「ろうそく革命」がなぜ革命と言えるのか、革命と言えるとしたらそれはどういう革命なのか、と改めて問われると、その回答はまちまち、あるいは簡単ではないと思います。「ろうそく革命」に関する報道資料や研究は膨大です。それらを踏まえて、自分なりの「ろうそく革命」像を描き、「ろうそく革命」の特質を考えてみる必要があると思います。

私はもう20年近く前になりますが、『岩波小辞典・現代韓国・朝鮮』（2002年）で「4・19革命」の項目を執筆しました。ちょっと長くなりますが引用してみます。

「1960年4月19日に起きた全国的な学生蜂起を頂点とし、李承晩政権を倒した3ー4月の一連の反独裁民主闘争。馬山での3・15不正選挙糾弾闘争を皮切りに、4.18高麗大学生デモ、4・19学生デモと続いた李承晩政権に対する学生たちの反独裁民主闘争は、この日、学生に対する警官隊の発砲によって186名の死者と多数の負傷者を出し、ソウルをはじめ5大都市に非常戒厳令が宣布されるに至った。しかし戒厳軍は中立を守り、政府が望んだ徹底した鎮圧行動には出なかった。「学生の血に報いよ」として李承晩の退陣を要求する4月25日の大学教授団デモと翌26日の再



▲『週刊金曜日』（2015.12.25）

度の学生・市民のデモによって李承晩大統領は下野を余儀なくされ、自由党政権は倒壊した。学生・市民のデモによって独裁政権を打倒したことから、古典的市民革命になぞらえて4・19革命、または4月革命と呼ばれるが、政権交代を実現しただけで、社会経済機構の変革はもとより、政治構造の変革にも至らなかったため革命とは言えないとして、「反独裁民衆闘争」と位置づける見解もある。4・19革命は、60－70年代の学生運動と民主化運動の精神的・理念的支えとして、韓国現代史に大きな影響を及ぼした。(金元重)

4・19革命(4月革命)は、一般に、韓国現代史のなかで唯一「革命」と呼ばれていますが、当初は「4月学生義挙」など呼ばれました。あれは「革命」であったという認識のもとに「4・19革命」という呼び方が定着するのは、数年後のことです。一方、87年6月民主抗争は韓国現代史の民主化過程において分水嶺をなす大きな闘争ですが、6月民主抗争(闘争)であって6月革命とは呼びません。

「ろうそく革命」の性格を考える場合、「4・19革命」「87年6月抗争」との対比で考えてみる必要があると思います。「ろうそく革命」はいかなる意味で「革命」なのか、その特質は何か？

2016年10月から17年3月まで、厳冬をつらぬいて闘われた「ろうそく集会」。多いときは200万人以上が結集して「朴槿恵退陣」を叫んだ「ろうそく集会」のシンボルである「ろうそく」をとって、「ろうそく革命」と呼ぶのは妥当だと思いますが、「ろうそく革命」という命名だけでは革命の特質を現したことはありません。革命の内実を表す規定が必要です。

私は、「ろうそく革命」はいろいろな視角、問題意識から迫ることによって、そのイメージを豊かにできるし、より科学的な概念規定ができるようになると思います。その点で注目したいのが、「主権者革命」という概念です。

これを最初に提起したのは、ソウル大学法科大学院の韓インソプ(韓寅燮)教授です。韓インソプ教授は、ソウル大人権センター所長も務めています。彼はまた韓国における公安関係事件の再審裁判にも深い関心を寄せ、理論的、実践的に再審闘争を推進している学者でもあります。

韓インソプ教授は2016年12月16日付ハンギョレ新聞(土曜版)に『「主権者革命」時代に行進せよ』という記念碑的な文章を寄稿しました。その論考は、「『大韓民国は民主共和国である』という憲法第1条から始まっています。韓教授は国会で大統領弾劾訴追案が可決された12月9日の段階で、いち早く事態の本質を次のように見抜いています。

「弾劾案可決は、国会議員234名の作品でしょうか？ そうではありません。主役はまさにわが国民でした。その国民は、市民や有権者というよりは今回は主権者の姿で現れました。大統領が国民の生命を度外視し(セウォル号事件)、執務室に現われもせず、国政壟断の共同正犯として蠢動していた驚くべき事態を知って、国民は主権者の名で大統領の権限を回収します。政治圏の複雑な算術計算に主権者は動揺しませんでした。主権者が一様に叫んだのは、大統領の『下野、退陣、即刻退陣』でした」。

そして、なぜ「主権者革命」と呼ぶかという点については、次のように述べています。

「私は、今回の流れを『主権者革命』と呼びます。濫用され壟断された大統領権限を回収すると決断したのは、主権者としての自覚でした。揺れ動く国会に対して、政党、議員の思いのままではなく、ろうそく民心を受け止めろと命じたのは、主権者の威厳でした。

…朴クネ退陣を主張した最初の主人公は、意外にも『中高生革命』の旗印を掲げた青少年たちでした。まだ有権者ではない無権者である中高生から始まったがゆえに、有権者革命と呼ぶことはできません。経済社会的変革を全面化しなかったことから、アンシャンレジーム(旧体制)を打破する市民革命の像を、そこに代入するには何か相応しくないものがあります。わが国民が『主権者』としての確信をもって、民主共和国の主人公として自己の姿を示す過程として、私は理解します」。

私は、まだ憲法裁判所の審判で大統領罷免が決定する前の時点で、このような透徹した状況判断と「ろうそく革命」の本質を言い当てた韓インソプ教授の慧眼に感嘆するばかりです。今後、「ろうそく革命」の具体的な経過、背景、動力、問題点などを、より詳しく調べながら「ろうそく革命」の全体像に迫っていきたいと思いますが、韓教授の卓見は導きの糸になると思います。

そして、もし岩波小辞典で「4・19革命」を書いたように、私たちの歴史に「ろうそく革命」の項目を書くとしたら、どんな記述になるか。これは皆さんご自身も試みしてみる価値がある作業ではないでしょうか？

以上で私のボイスメッセージを終わります。ありがとうございます。



復刻版『クナリオンド 韓国政治犯・家族の声を聞け!』をめぐって

李東石です。

45 年前、真冬のソウル拘置所に何も無いまま収監され、飢えと寒さに耐えていた時、同じ 1 舎上に、私と同じ韓国外国語大学の学生が、緊急措置法で拘束されていました。彼は、まだ 20 歳になっていず、少年囚でした。彼が、私が同じ韓国外国語大学生だと知って、朝洗面時等にこっそりと歯ブラシやトイレトペーパー、パンなどを、監視窓から投げ入れてくれました。私はそれが忘れられず、いつか必ずお礼を言わなくてはと思っていました。

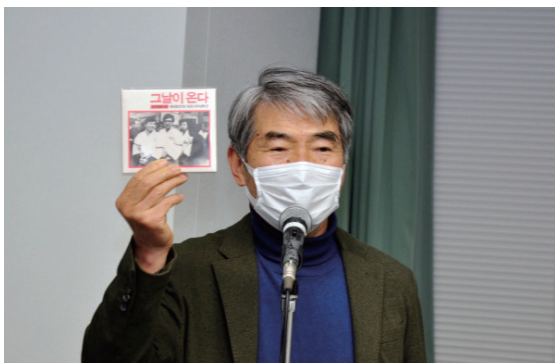
再審が始まり、年に何度かソウルにきましたが、彼を探す時間がなくて、再入学してから大学に問い合わせしました。でも、個人情報なので教えられないと言われました。何かの集まりで、「民青学連」関連で拘束されたことがある人と会い、そのことを話すと、“多分あいつだ”と言って後日、会わせてくれました。

当時の面影が残っていましたが、彼も還暦を過ぎていて、今は“氣功”を利用した治療所をしています。私のことを覚えていて、その日は焼酎を飲みました。私が、「肩が痛い」と言うと無料で治療してくれると言って、以来もう 1 年半ぐらい、週に二回ほど通っています。ときには焼酎を飲んだりします。彼の治療所には、運動圈の人が治療を受けに来ていて、何人かの活動家とも知り合いました。

話しはこれからです。

「クナリオンド」の復刻版を 20 枚、李哲氏に押し付けられてソウルに来て、知り合いに渡しました。今日、ふと一枚残った CD のケースの写真見えて、はっとしました。彼に似ている！ちょうど今日、治療を受ける日だったので、治療後に聞いてみました。CD の写真を見るや、彼は“私だ”と言いました。

私が CD が作られた経緯を説明して、彼は残り



▲復刻版『クナリオンド』

の 2 人の消息を知らせてくれました。

写真に向かって左（先頭）が彼で、韓国外国語大学の政治外交科、75 年入学で。真ん中が、ソン・ギョンシク氏、同じく緊急措置で、4 年 6 ヶ月拘束。韓国外国語大学・行政学科に 68 年入学。前国会議員、月刊中央記者、労働日報編集局長でしたが、残念ながらお亡くなりになりました。右端がソン・ヨンギル氏。同じく緊急措置。73 年にソウル市立大学・社会教育科に入学。高校の社会科教師で、全教組初代企画室長でした。

私は CD を一枚しか持っていなかったのに、大阪に戻り 2 月末に来た時に差し上げますと言いました。

彼らと会って焼酎を飲む楽しみが、一つできました。皆んな頑張っているのが、何よりも嬉しかったです。（2020.11.24 李東石）

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

李宗樹です。

東石氏の話はとてもいい話だと思います。

以前、カン・ヨンジュ（欧米留学生事件）氏と話していたとき、彼が「学生時代に収監された人たちは、もう一度学校に戻り、学業を全う（卒業）することで、個人的な過去の清算の助けになるのではないかと」言っていました。今回のその人との再会は、東石氏にとっても大きな意味があると思います。

僕は東石氏が復学したことを内心では、とてもいいことだと思っていました。

個人的な話になりますが、僕も再審裁判の過程でかつての友人と再会することができ、当時の彼の状況やその後、また学内の様子など知ることが出来ました。また、もう一人親しくしていた友人に関しては真実委に協力を頼んで探し出してもらえようようお願いもしたり、学校の同窓会連絡事務

所に足を運んだりして、見つけ出そうとしましたが、いまだ果たせていません。

いずれにしても、過去の空白を埋める作業の一つとして、とても貴重な出会いだと思います。

さて、29日の集会ですが、いろいろ考えましたが、今回は申し訳ありませんが不参加ということにさせていただきます。

その間、今回の取り組みに関し準備をしてくださった人たちには申し訳ない限りですが、会場ま

での道すがらの他人との接触を考えるとちょっとひるんでしまいます。

コロナ禍の中、意味深いものになるよう願っております。
(2020.11.25 李宗樹)

●復刻版 CD『クナリオンダ 韓国政治犯・家族の声を聞け！』は、在日韓国良心囚同友会でも扱っております。特別価格：2,000 円（送料無料）

《 追悼文・特集 》

在日韓国人政治犯・金勝孝氏の急逝を悼む

皆様に突然の悲しいお知らせを致します。

今日 12 月 26 日の朝、京都の金勝孝さんが亡くなられたそうです。勝孝さんの面倒をみている身内の方が昨夜は何事もなく別れたということですが、今朝、家を訪ねるともうすでに意識もなく、冷たくなっていたそうです。救急車を呼んで病院に運ばれましたが、死亡が確認されたそうです。

お兄さんもご家族も大変だと思います。葬儀の予定は、まだ何も決まっていません。

金勝孝氏のご冥福を祈りながら、とりあえず急ぎご連絡致します。
(2020.12.26 李哲拝)



再審無罪宣告後の家族を囲んで（2018.8.31 於：ソウル 兄・金勝弘氏、張敬旭弁護士、支援メンバー）



再審無罪判決を受けた後、日本の京都で故・金勝孝さん（中央）と、兄・金勝弘（右二番目）さん
筆者・張敬旭弁護士（右端）（2018 年 張敬旭弁護士提供）

勝孝氏が残した足跡は、強力な歴史の記録であり、永遠に大切にしまおうと思います

2020.12.27 姜 鐘健

急な知らせに、驚かざるを得ませんでした。前後の何も分からないまま、ただその事実だけをいきなり認めるには、気がおかしくなりそうでした。

彼の生涯が生涯だっただけに、悔しい思いで、人が良く、勉強もよくできた彼が戻ってくることを心焦がして待っていたのに……。

千辛万苦の末に勝ち取った勝利と補償……かすかな微笑みを浮かべただけで、その味を味わうこともなく、混乱な精神世界に入り込んだ彼。

彼を、心を痛めながら守ってきた方々の大きな心の傷に、心からの慰労の言葉を送ります。

幼いころ親しく過ごし、動物園と一緒に遊びに行ったあの日の人の波、その日の太陽の光を思い出します。私と勝孝は、同じ小学校、中学校、高校に通いました。同じクラスになったことも、何回もありました。勉強がいつも良くてできる彼を遠くから眺めながら、できない自分をいつも責めていた私でした。

大学では違う道に進み、各々異なる大学で勉強しましたが、まさに時代は1970年代……民族の歴史とウリマルを習い、自分のアイデンティティーを探し求めるために、祖国でまた巡り会ったのです。

反共国家、朴正熙の独裁時代、恐ろしく、怖くはあったが、祖国の民主主義と統一を願う心はひとつでした。

やっぱり、彼は1974年、ソウル大学に通っているときに、悪名高い中央情報部の毒牙にかかり、ついで私は1975年、高麗大学に通っているとき、中央情報部の地下室に引っ張っていかれました。1974年の拷問が酷かったのか、1975年の拷問が



右から故・金勝孝さん、柳英数氏、姜鐘健氏、崔スンホ PD（京都の自宅にて取材を受けた）

より激しかったのかは、今となっては分かりませんが。私は、その物理的苦痛と精神的破壊をやったのことで耐えしのいだものの、勝孝、かれは細くて繊細、デリケートな性格だっただけに、大きな傷を受けてしまいました。

その後の過酷な収容生活は、彼の精神を徹底的に踏みにじってしまいました。7年余の拘禁生活のあと手に入れた自由だったのに、精神の根本を破壊された彼は、またもや精神病院の鉄網を味わうことになりました。その歳月20年。社会に背を向け、結婚もできないまま、ひとえに自分の精神世界で生きてきた彼。

30年、40年の歳月に祖国の姿は否応なく変わり、多少の民主主義は一抹の希望を抱かせるかに見えたものの、遅きに過ぎました。国家賠償請求事件も、まだ終わっていないのに……。

彼の死を涙で送りますが、彼が残した足跡は、強力な歴史の記録であることを永遠に、大切にしまおうと思います。

2020.12.27 姜 鐘健（訳文：李哲）

勝孝氏を思うと、やり切れない気持ちです。二度とこんな犠牲があってはなりません

2020.12.30 康 宗憲

同友会の皆さん

金勝孝さんの葬儀に関してご報告します。

12月29日の通夜と30日の告別式を無事に終えました。葬儀は遺族の意志で、一般の方々の弔問を受けずに家族葬となりました。ご家族と近い親戚、そして数名の同窓生らが参加する中で、ひっそりと、しかし厳かに執り行われました。

棺の中の彼は穏やかなお顔で、安らかに眠っているようでした。

お兄さんの話では、一か月前から体調が悪化し

衰弱がひどかったようです。どこか良い入院先を探しておられたそうですが、コロナウィルスの渦中ということもあって見つけられず、このような痛ましい事態となりました。

前日の夕食は普段通りに取られ就寝されたそうです。介護役の親戚の方が昼食の弁当を持参して訪れたところ、すでに意識がなかったと言います。救急車で病院に運送され、応急措置を施しましたが、手遅れでした。医師が公表した死因は虚血性心不全です。

誰かに看取られることもなく、静かに息を引き取った彼を思うとやり切れない気持ちです。

思えば、野蛮な拷問捜査と獄中生活での絶え間ない迫害は、純真無垢だった彼が持ちこたえるには、余りにも過酷な日々でした。その後遺症は日本に戻ってからも、癒しがたい傷跡として彼を苦しみ続けたのです。

二度とこのような犠牲があってはなりません。

今は、すべての痛みと苦しみの重荷を下ろし、安らかな時を過ごしてほしいと思います。

心よりご冥福を祈ります。

韓国内でも彼を悼む報道記事が相次いでいます。

告別式では在日同胞再審弁護団の弔電が紹介されました。



写真提供：康宗憲氏

どういう心境かわかりませんが、国家情報院長の供花もありました。

悲痛な思いで彼と永別したご遺族に、幾ばくかの慰労になってくれたらと思います。 康宗憲

謹んで故・金勝孝先生の極楽往生を祈願致します

2020.12.28 弁護士 張敬旭（訳文：李哲）

謹んで故・金勝孝先生の極楽往生を祈願致します。

映画「自白」の主人公のお一人である在日同胞捏造スパイ事件の被害者、故・金勝孝先生が今日の朝早くこの世を去られました。急な故・金勝孝先生の悲痛な知らせに接し、茫然自失の思いを禁じえません。当惑しておられる遺族の方々と同友会の先生たちにどんな慰労の言葉を申し上げるべきかわかりません。

どうか故・金勝孝先生が祖国に留学に来てスパイと捏造され、一生涯を拷問の後遺症による苦痛の中で生きながら逝かれた、その悲劇的な生活の苦痛と不運から解放されて靈魂の安息を得られるよう、切に願います。

故・金勝孝先生のスパイ捏造と、再審無罪の経過をご紹介します、故人の生前の面影が出てくる「ニュース打破」の映像（「祖国が棄てた人々」の映像の37分頃から故人の生前の姿が登場します）を、リンク致します。

—1974.5.03 ソウル大学教養課程部に在学中、下宿家から令状もなく中央情報部の職員たちによって強制連行される。

—1974.6.28 国家保安法違反、反共法違反、スパイ未遂の容疑でソウル刑事地方法院に起訴。

—1974.11.4 スパイ未遂の罪を除いた、残りの容疑事実についてすべて有罪と認め、懲役12年と資格停止12年を宣告。

—1975.3.18 ソウル高等法院は1審の刑が重すぎるという理由で、1審を破棄し、懲役8年と資

格停止8年を宣告。

—1975.6.24 大法院はスパイ未遂の法理誤認を理由に2審を破棄して還送。

—1975.9.26 破棄還送審は大法院の趣旨に従い、公訴事実のすべてを有罪と認め、懲役12年と資格停止12年を宣告。

—1975.12.23 大法院は上告を棄却し、懲役12年と資格停止12年が確定。

—1981.8.15 光復節の特赦で仮釈放され、帰日。

—2016.11.9 ソウル高等法院に再審請求。

—2018.6.11 再審開始決定。

—2018.8.23 検事、無罪求刑。

—2018.8.31 再審無罪宣告、および2018.9.8無罪確定。

金勝孝先生、それほど懐かしく美しかった祖国に留学に来られたことを後悔されないで、天の国では必ずもう一度祖国を求めてきてください。どうか一度だけ許してください。

そして魂だけでもこの地に来られ、実現できなかった青春の夢を広げ、美しい祖国の地を満喫されるよう望みます。

金勝孝先生、愛しています。 弁護士 張敬旭

※「ニュース打破、スパイ捏造の映画「自白」の主人公、金勝孝氏再審で無罪」：

<https://www.youtube.com/watch?v=t8p3MNqswqE>

※「ニュース打破、祖国が棄てた人々（2015.12.29）」：

<https://www.youtube.com/watch?v=3iGtLVkML58>

韓国国情院「過去を反省」／拷問捜査で異例の表明／被害の在日男性に弔花

2021.1.16「共同通信」配信

韓国国家情報院の前身、韓国中央情報部（KCIA）が1970年代に拷問捜査した被害者で昨年末に死去した在日韓国人男性の葬儀に、国情院トップの朴智元院長が「過去を反省し、こうしたことが繰り返されないようにとの思いと、故人への哀悼の意を示すため」に弔花を送ったことが、16日分かった。韓国の情報機関が犯した人権侵害をトップが認め、反省を表明するのは極めて異例。共同通信の取材に国情院が明らかにした。

国家権力による被害者の名誉回復を図っている文在寅政権に情報機関も同調した。

男性は京都市の金勝孝さん。ソウル大留学中の74年に連行され「北朝鮮スパイ」の嫌疑をでっち上げられて服役。81年の仮釈放時に拷問の後遺症とみられる精神障害を患っていた。2018年に再審で無罪となったが、その後も社会生活を送れず、昨年12月26日に自宅で亡くなっているのが見つかった。70歳だった。

韓国では1970～80年代、多数の在日韓国人が「日本で北朝鮮指導員から機密探知指令を受け潜入した」として摘発された。近年の再審で嫌疑自体が拷問でねつ造されていたことが次々確認され、元被告や巻き込まれた家族の少なくとも36人の無罪が確定している。

文在寅大統領は2019年の来日時に「独裁権力の暴力に深く傷ついた被害者たちと家族に、大統領として国家を代表して心から謝罪する」と表明。政権と与党は昨年、北朝鮮スパイの国内捜査権を国情院から警察に移管する法改正を行った。

朴智元氏は、1973年にKCIAが東京で拉致した民主化運動リーダー、金大中氏（後の大統領、故人）の元側近。金勝孝さんが取り上げられたスパイ捏造被害を告発する韓国ドキュメンタリー映画「自白」を見て、金さんのことを知っていたと国情院は説明している。

金さんは仮釈放後、統合失調症と診断され約21年間入院。退院後も拷問の記憶におびえて外出できず、亡くなる約1ヵ月前からは立つこともできなくなった。死因は虚血性心不全と診断された。

心身破壊され40年の沈黙／拷問捜査、責任問われず
韓国国家情報院の朴智元院長が「過去を反省」して弔花を届けた京都市の在日韓国人、金勝孝さん（享年

70歳）は、拷問が原因と強く疑われる精神疾患と捜査官の脅迫の記憶から、被害を40年間、家族にも話さなかった。再審で「北朝鮮スパイ」の冤罪は晴れたが、心身を破壊されたまま人生を終えた。拷問の責任は誰も問われていない。

1974年、ソウルの下宿先から国情院の前身、韓国中央情報部（KCIA）に連行された金さんは、懲役12年が確定し服役を始めた時には、精神の均衡を失っていたと当時を知る人は話す。連行から7年3ヵ月後に仮釈放された後に、統合失調症と診断され、2003年まで入院。退院後も意思疎通は難しい状態が続いた。

拷問の記憶を話したのは、同じように服役した幼なじみの姜鐘健さん（69）が、14年に再審で無罪となり、金さんに再審を勧めてからだ。

「丸裸で殴る蹴るの暴行を受け、20日間、眠ることも許されなかった」「水責めで息を止められ、電気ショックで何度も気を失った」――。

家族が聞き出した連行直後の拷問は、姜さんが受けたものと同じだった。仮釈放直前にKCIA職員が拷問を口外すれば「連れ戻す」と脅し、金さんがこの言葉におびえてきたことも分かった。

再審が実現しても、「韓国は怖い」と繰り返す金さんは訪韓できなかった。本人不在の法廷で有罪の証拠は「自白」だけで、検察も無罪を求刑した。だが裁判所は、証拠がないとして無罪判決の中でも拷問を認定しなかった。これまで在日韓国人の事件では金さんを含め36人が再審で無罪となり、拷問被害を認めた判決もあるが、時効の壁があり加害責任が追及されたことはない。

死刑判決まで受け、15年に再審で無罪が確定した大学教員、康宗憲さん（69）は、京都で執り行われた金さんの葬儀に参列し、国情院長の弔花を



▲再審で無罪が確定し、取材に応じる金勝孝さん
＝2018年9月、京都市



▲葬儀会場に届けられた朴智元・国情院長の弔花
＝2020.12.29 京都市
(康宗憲さん提供)

見た。

「一生を踏みにじって、花一つなのか」

花の前で、悲しみよりも怒りの方が大きかったと、康さんは言う。だが、国情院トップが人権侵

害に反省を表明したことは例がない。文在寅政権が進める人権重視の「改革の反映」であることも間違いないと、康さんは複雑な胸中を語った。

(共同通信・栗倉義勝)

届いたメッセージ紹介

■ 石井です。悲しいことです。何という一生だったのでしょうか。辛いですね。ご冥福をお祈りします。
(2020.12.26 石井)

■ 岡内です。なんということでしょうか。辛い人生を過ごされ、もう逝ってしまわれたのですね。また訪ねてお話ししたかったです。花束を持って訪ねた時、笑顔で受け取ってくださいました。あの笑顔を大切に覚えていたいです。もう一度お会いしたかったです。ご冥福お祈りいたします。

(2020.12.26 岡内克江)



■ 金勝孝さんの訃報、驚きました。
長く圧政によって翻弄された生涯でしたが、最後は無罪判決を勝ち取られて幸いでした。
恩師の故・木村彰吾先生も見守っていてくれたものと思います。
ご冥福を祈ります。(2020.12.26 若松敏幸)

■ 金勝孝氏ご逝去の報に大変驚いております。
ゆっくり穏やかな余生をお過ごしになられるものと信じておりました。
私が京都で救援運動をしていた折には、金勝孝氏はとても親しいお名前でした。
大変な人生を強いられましたが、全身全霊で抗いぬいた一生だったと思います。
心よりご冥福をお祈りします。

(2020.12.26 渡辺厚子)

■ 金勝孝氏の突然のご逝去に韓国の関係者も大変驚き、悲しんでいます。

コロナ禍の中、ご葬儀に参加もできず残念でなりません。

金勝孝氏の報道をした「ニュース打破」が、ニュースにしたいようです。家族だけのご葬儀だとのことですが、どなたかご葬儀の写真や追悼文などを送っていただけないでしょうか？ よろしくをお願いします。

(2020.12.27 李東石)

■ 石井です。李哲さん、(姜鐘健さんの追悼文の) 訳文、どうも有難うございました。涙を禁じ得ませんでした。

小学校、中学校、高校と同窓だった鐘健氏には、尽きぬ思いがあることでしょう。

天国では安らかな眠りにつかれますよう、祈念するばかりです。(2020.12.27 石井)

■ 松本です。突然の訃報に驚きました。急激な寒さのせいでしょうか。

再審無罪を得られて、ゆっくり暮らしてゆかれると思っていましたのに、ご家族のみなさまも悲痛な思いでいらっしゃることでしょう。

姜鐘健氏の追悼の言葉も、心に沁みます。
金勝孝氏とご家族のみなさまが再審に向けて闘ってくださったことは、本当に大きな意味のあることでした。

映像で心の底からの痛みと被害を証言してくださったこと、お会いできた時の一瞬の笑顔を、いつまでも忘れられません。

今は安らかにお休みくださいますよう、願っています。

(2020.12.27 松本百合)



韓国・金槿泰記念治癒センターより良心囚同友会宛ての布マスクへのお礼状

(2020年5月)

●在日韓国良心囚同友会様

布マスクをお送りくださり、ありがとうございます。こんな時だからなおさら嬉しいプレゼントです。また一つ一つが丁寧に真心込めて作られたことが手に取るように感じられます。女子修道院の皆様には感謝をお伝えください。大切に使用させていただきます。

皆様とともに今を乗り切りたいと思います。お元気で。(吹田市・M)

●同友会の皆様

薫風の五月ですが、コロナ収束の目途はなかなかつきません。ややもすると暗い気分になる中で送って頂いたマスクで爽やかな風が薫るようでした。ありがとうございます。大切に使用させていただきます。同友会の皆様もくれぐれもご自愛ください。

(狛江市・S)

●前略

マスクありがとうございました。日常がコロナで様変わり、気持ちの維持、折り合いをどうつけていくのか……。そんな時のマスク!! 人の温かさが一番と、また元気を頂きました。皆様もどうぞお元気で。(高槻市・H)

●同友会の皆様

初夏の風が心地よく感じてもコロナの影響で暗く沈みがちな気持ちでいたところに、思いがけもなく手作りマスクを届けて頂き、ありがとうございました。アベノマスクよりも早い到着にビックリです。

自分のことで精一杯のはずなのに遠くの者にも心を配って下さって嬉しかったです。遠距離移動が緩和されれば大阪に行って皆さんに会えたら良いなと思います、それまで皆さん、お互い元気にいきましょう! それでは。(熊本・O)

●拝啓

薫風吹く季節ですが、気分の重いこのコロナ渦です。この度は人権医学研究所・金槿泰記念治癒センターからの心温まるマスクを私にまでお送り頂き、誠にありがとうございます。日韓の絆を感じます。大切に使用させていただきます。

時節柄、皆様のお体を大切になさってください。またお目にかかる日を楽しみにしています。いつまでも忘れずにいて下さり、本当に感謝の他ありません。敬具。(神戸市T)

●在日韓国良心囚同友会様

この度は新型コロナウイルスが猛威を振るう中、思いがけずも素敵な手作りのマスクを2枚もお送り頂き、ありがとうございました。大切に使用させていただきます。作って頂いた韓国の女子修道院の皆様にも機会がありましたら、感謝の気持ちを伝えて下さい。私はコロナ対策を韓国に見習ってほしいと思っています。

「在日留学生スパイ事件」の捏造から43年が経ち、李さんをはじめ「在日韓国良心囚同友会」の方々が今なお半世紀になろうとする、息の長い闘いを続けられていることに頭が下がります。韓日の架け橋として今後ともご活躍されますように、また国家と(国)民は別だとの認識のもとに、国家としても日本と韓国が真に近くて親しい国になれるように願っております。(東京・N)

●同友会の皆様

大阪もそうですが、東京も連日「コロナ」「コロナ」で大騒ぎです。もちろんコロナには十分注意して生活しておりますが、安倍や小池たちの自分たちの無責任さを覆い隠し、さも仕事をしているかの態度が許しがたいのです。そんな時、思いがけないプレゼントが送ってきたので、驚きと嬉しさで一杯になりました。「アベノマスク」とは大違いです。韓国の皆様には本当に感謝致します。困難な社会状況がしばらく続くようです。何かあればお互い助け合っていきましょう。お体に気をつけてお過ごし下さい。敬具。(東京・K)

●同友会の皆様

韓国の方々が手作りした大切なマスクを送って下さり、ありがとうございます。思いがけず、とても嬉しく頂戴致しました。日本政府がコロナウイルス対策に真剣に取り組まない中、こんな日本社会であることを、私は在日の方々に本当に申し訳なく思っております。

皆様が無事でありますよう、祈っております。

(武蔵野市・M)

●同友会様

この度は心のこもった手作りのマスクを送って頂き、大変ありがとうございました。既製品でも品薄のために手に入らない中であって、思いもかけずに

頂いたことに嬉しく、ありがたく思っています。そして使い心地がいいです。長時間使っても耳が痛くなりませんし、顔にフィットします。皆様の思いやりあるプレゼントに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。(新潟県・A)

●同友会様

お心遣い、ありがとうございました。皆様もお元気で過ごして下さい。(広島市・H)

●同友会様

お心のこもった布マスクを賜り、深謝申し上げます。とても助かります。(石川)

●前略

布マスクお心遣いに感謝致します。ありがとうございました。一日も早く終息することを願っております。くれぐれもご自愛くださいませ。御礼申し上げます。(多治見市・N)

●前略

温かい心の贈りもの、ありがとうございました。ほっこりしました!! 洗いながら長く、長く使います。良心囚同友会の闘いの前進を心から願っております。第2次文在寅政権のもとでの一日も早い完全勝利を!! (枚方市・M)

●同友会様

この度はお忙しい中、お心遣い誠にありがとうございます。4月27日に受け取りました。パンデミックとはこういうものかと、世界史的事態に面食らうばかりです。毎日毎日、「コロナ、コロナ」で、すべてが収束していくようで、様々な大事なことが覆い隠されるか、あるいは矛盾が浮き彫りにされていく混乱にあります。心して生活せねばと思います。

(四日市市・O)

●前略

思いがけず素敵な布マスク2枚が届きました。大変嬉しくて久しぶりにいい気分になりました。コロナのニュースで腹立たしいことばかり。特に韓国の成功に日本政府の無視と見える態度に、国民の安全を軽視しているリーダーを持つ日本国民の不幸を感じています。私も住民の一人として無能な政治家官僚に怒り心頭です。心にバイアスを持つみみっちい人間は哀れです。早々。(神戸市・K)

●在日韓国良心囚同友会の皆様へ

日々の生活、活動、ご苦労様です。この度は本当

に貴重なマスクを送って頂いて、ありがとうございます。それも韓国の同志から同友会に送られてきた貴重なものを送って頂いて、ありがとうございます。あらためて韓国カトリックの人々や韓国の心温まる人々の力強い力、歴史を動かす底からの力、行動力に敬意を表します。

「これから大変な時期を迎えます」。まったくその通りです。今回のウイルスのことで、日本のいや、世界の経済活動や政治社会がどのような上に成り立っているのか、実に明らかになってきました。私は私たちの同志である労働者、民衆が本当に主人公となって、分かち合い、支え合っていける経済、政治「社会」を目指して、新しい時代、社会を共に作っていかないとけないと思います。

本当に、布マスクありがとうございました。大切に使用させていただきます。(松江市・A)

◎「中日新聞（市民版）」(2020.5.19) 記事

「《街角ニュース》炊き出しでマスクを配布

名古屋市内で生活困窮者らの支援に取り組む「笹島人権センター」が、14日夜、中区若宮大通沿いの炊き出し会場でマスクを路上生活者(ホームレス)らに手渡した。

洗って繰り返し使えるマスクで、三重県の慈善団体「四日市市友の会」や韓国のカトリック系団体から計150人分の寄贈を受けた。高速道の高架下で間隔を空けて並んだ約120人に、食事やお菓子と一緒に配った。ホームレスだという男性(70)は、「ありがたい。お店に入るときなどに使いたい」と話していた。」



▲写真提供は、木戸幸子さん
(ひまわり共働会)

●在日韓国良心囚同友会御中

本日韓国からの手作り布マスクをお送り頂きました。厚くお礼申し上げます。私自身はあり合わせの布で自分用の手作りマスクを6枚作成しました(外出の度に洗って使っても足りています)。私の近くの人で山谷労働者福祉会館からマスクのカンパ依頼に応じて集めている方がおられるので、そちらに託そうと思います。(岐阜県大垣市・K)

《追悼①：鄭敬謨先生逝去（2021.2.16）を偲んで》
チョン・ギョンモ

特集記事「祖国に春は来ますか？ 朝鮮半島統一に生涯ささげ」

毎日新聞（2018年4月2日）より

歴史が動く瞬間がある。いまがそのときなのかもしれない。どうしても会いたい人がいた。鄭敬謨さん。93歳。遠く日本の地で、分断された朝鮮半島の統一に生涯をささげてきた「亡命」韓国人である。祖国に春は来ますか？【鈴木琢磨】

「いいニュースだ」。3月27日の昼下がり、横浜市にある鄭さん宅を久しぶりに訪ねると、サンタクロースのごとき白いヒゲをなで、そう言った。モスグリーンの北朝鮮の特別列車が北京にやってきていた。乗っていた要人が誰なのかまだ公式発表はなかったが、タイミングからして金正恩・朝鮮労働党委員長に違いないと、鄭さんはにらんでいた。「留学してヨーロッパの空気を吸った若い指導者ですよ。このままではやっていけないことはよくわかっている。そのためにまず中国との友好関係を確立しておこうとしたんだ」。

1970年、時の韓国・朴正熙政権から逃れ、日本で祖国の民主化運動に身を投じた鄭さんは、南北朝鮮現代史の生き証人と呼ぶにふさわしい。24年、日本統治下のソウルに生まれ、慶応大医学部予科を修了し、戦後は米国に留学。50年に朝鮮戦争が勃発するや、米国防総省職員となり、板門店で休戦会談の通訳を務めた。回顧録「歴史の不寝（ねずの）番（ばん）」（藤原書店）にある。

＜私は米軍と中国軍の測量技術者たちがコンパスと三角定規で朝鮮半島を南北に切断する作業の現場を何度か目撃するはめになりましたが、祖国の大地が両断されるその光景は、あたかも骨肉の誰かが生体解剖を受けている場面のように、それを目撃するときは本当に胸が痛みました＞

その板門店で27日、南北首脳会談が開かれる。初対面となる金委員長と韓国の文在寅大統領は、南北がにらみ合う軍事境界線上でいったい何を語り合うのか？ 20代のころ休戦会談場で感じた痛みを思い出したのか、鄭さん、万感こみ上げてきた顔になった。

「もう戦争はしないということでしょう。戦争をすれば、南北とも全滅する。周辺国も巻き込まれる。核戦争は起きない、起こしてはならない。それを世界へ宣言する場として、板門店はふさわしい。そもそも朝鮮戦争は理不尽でした。人為的な北緯38度線

で国土が引き裂かれ、同族同士が殺し合う理由などなかったのですから」。

異国の地・日本で「ペンタゴン（米国防総省）のスパイか？」「北のスパイか？」などとささやかれながらも、分断史に終止

符を打ちたいとの思いを募らせていく。「ただ、かけずり回ってきただけです。親しい作家の黄皙暎は、私のことを人生の裏街道を歩いてきた夜間部だと言うけれどね」。



▲「統一の春は来るよ」と語る鄭敬謨さん＝横浜市、鈴木琢磨撮影

そう笑って紅茶をすすり、おもむろに「4・2南北共同声明」について語り出した。その顔はちょっと誇らしげに見えた。89年に韓国の民主化運動のシンボルでもあった文益煥牧師と2人でひそかに平壤に飛び、金日成主席との会談を通じ、まとめあげた声明文のことである。発表したのが4月2日だった。

1. 民主は民衆の復活であり、統一は民族の復活であるから、この二つは分離できない一体のものである。
2. 統一に関する南北間の対話の窓口は広く開放されるべきであり、当局者たちの間の独占にゆだねない。
3. 統一を平和的に成し遂げるためには、連邦制は必ず経ねばならない経路であるが、この実施は一挙にすることもできるが、時間をかけて漸次的にすることもできる。

「この4・2南北共同声明が金大中大統領と金正日総書記との史上初の南北首脳会談で発表された6・15共同宣言、盧武鉉大統領と金正日との2度目の首脳会談で出された10・4共同宣言へとつながるものでした。文牧師と私は統一のアイデアの種をまきました。その精神は、つまるところ戦争を経ずしていかに南北が一緒になるかです。ところが、韓国が保守政権になって、残念ながら、葉っぱは枯れ、枝も朽ちてしまいましたが、種は残っていたと思っています」。

その種を文大統領が再び育て、統一の花を咲かそうと？「そうだ。文在寅は文益煥や私に親近感を持っているでしょう。本も読んでいるでしょう。3度目の首脳会談を前にして、再読してくれていたらうれしいがね」。

私の手元に平壤で出た1冊の写真集がある。タイトルは「統一のオボイ（父）」。金総書記の足跡をまとめたものだが、その冒頭は板門店に建つ巨大な石碑。統一問題に関する文書に金主席が残したという



▲ 1989.3.27 平壤で金日成主席と握手する鄭敬謨さん（左）。中央は文益煥牧師＝鄭さん提供

生涯最後の親筆を刻んでいる。

そしてページを繰ると、文牧師と鄭さんの訪朝を伝える韓国紙「ハンギョレ」を読む金主席の姿、さらに鄭さんの写真もある。金主席一周忌の95年に文牧師夫人を伴って訪朝したときのもので、革命の聖地とされる白頭山でのスナップだ。この訪朝で文牧師夫人は板門店を通して帰還し、連行された。金委員長も文牧師や鄭さんを知らないはずはないだろう。

希望を持ちたい でも私には時間がない

それにしても朝鮮半島をめぐる情勢がめまぐるしい。南北首脳会談に続き、5月には史上初の米朝首脳会談も予定されている。「私は北朝鮮が核やミサイルを持ったことに賛成するわけではない。ただ今まで国が存在しえたのは核のおかげでもある。死にもぐるいで開発したのだろう。米国にしても、北朝鮮の断固とした態度に一種の敬意、敵ながらあっぱれと感じたはずだ。トランプ（米大統領）の興味は金もうけでしょう。核戦争ではなく、うまく手なずけてビジネスになればいいと思っているに違いない。安倍（晋三）首相も日朝首脳会談をしたいのではないか。北朝鮮にしても拉致問題をほうっておいて何

の得もないから（拉致被害者は）みんな帰し、日本と仲良くしようと提案してくれないか。金正恩はその道を選ぶ。そうあれかし、と願っています」。

趙ヨンピルさんらが舞台上に立った韓国芸術団の平壤公演のテーマは「春が来る」だが、うたぐり深い私は「統一の花」も幻と消え、冬に逆戻りするのはとの懸念がぬぐえない。

庭に出た鄭さんが遠くを見た。「春か……。北も南もいろいろあった。うまくいったり、傾いたり。今年はどちらも建国70年だ。南北が真の和解をする、そんな春が来てほしい。朝鮮民族の一員として希望を持ちたい。でも私には時間がない。北の白頭山には登った。最後に南の済州島に行ってみたい。そしてもう戦争はない、これで安心だと思って目をつぶることができたら。春は来る、来るよ！」。そう声をしぼり、私の手をぎゅっと握った。

ソウルの幼稚園に通っていたころにオルガンに合わせて歌った「鳳仙花の種」をいまでも覚えているらしい。

♪私は小さな鳳仙花の種 黒い身ひとつではじき出され 暗い土の中に埋もれるのは 春がきて芽吹くときを待つため……

////////////////////////////////////
《追悼②：白基玩^{ベク・キワン}先生逝去（2021.2.15）を偲んで》
偉大な遺産「あなたのための行進曲」はどう作られたか
民衆の声（2021年2月19日）金ドンヒョン記者（訳文：中村猛）

「民衆の愛国歌」と呼ばれ、ほとんどすべての集会、行事で、始まる時に鳴り響く歌です。この「あなたのための行進曲」の歌詞が、先日他界された白基玩先生の文章であることをご存知ですか？ この歌が5.18光州抗争を讃える歌であることをご存知ですか？

白基玩先生

2021年2月15日、白基玩先生が89歳を期に他界されました。白基玩先生はいつも、貧しく、疎外された人々の傍で闘った人です。韓国の社会運動全般に参加した民衆の指導者でした。

1970年代、朴正熙政権に対抗して闘い、1974年に緊急措置1号違反で初めて拘束され、1979年には「明洞YWCA偽装結婚事件」で投獄され、1980年代に全斗煥政権に抗して闘い、1986年に「富川クォン・インスク性拷問真相暴露大会」を主導した疑惑で投獄されました。

1987年には独自の民衆候補として大統領選挙に出馬し、金泳三・金大中候補の単一化を訴えて辞退しました。1992年に再び独自の民衆候補として大統領選挙に出馬して完走します。

その後、韓国民衆の闘争現場の先頭に座り続け、その現場には「あなたのための行進曲」が鳴り響きました。「あなたのための行進曲」の歌詞は白基玩先生が獄中で作った長編詩くメッピナリ>ー「若い南の踊り手に送る」という詩の一節に曲を付けて整理

した歌詞として作られます。

<メッピナリ>は白基玩先生が1979年に「YWCA偽装結婚事件」を主導して、保安司・対共分室に引張られて過酷な拷問にあい、戒厳法違反で拘束された時の1980年12月に書いた長編詩です。

光州を讃える歌、「あなたのための行進曲」

ユン・サンウォン烈士は、全羅南道鉦山郡で生まれ、全南大の政治外交学科に入学、在学中に社会運動に関心を持つことになります。卒業後は労働運動を組織し、労働者の野火夜学で教えることになります。

ユン・サンウォン烈士を夜学に導いた人がパク・キスン烈士で、1958年に全南の宝城郡で生まれ、全南大師範大学に入学します。1978年に、光州の光川洞聖堂で同僚らと野火夜学を設立するも、夜明けに煉炭のガス中毒で亡くなりました。

ユン・サンウォン烈士の日記には「永遠の労働者の友・キスンが死んだ日」「火花のように生きていたのに なぜじっと目を閉じているのか 二つの頬に流れ

たバラ色 いつもはかないほど美しかったのに……」。

5.18 光州抗争でユン・サンウォン烈士は、野火夜学の人たちと共に、闘士会報を作って配布します。そして民主闘争委員会のスポークスマンを引き受け、抗争の最終日に全南道庁を最後まで守って、戒厳軍の銃に撃たれて亡くなることになります。

1982 年 2 月にパク・キスン烈士とユン・サンウォン烈士を讃える靈魂結婚式が望月洞墓地で行われ、光州地域の文化活動家たちが、小説家・黄皙暎の家に集まり、二人の御霊を慰労する歌劇を作ることになります。題名は〈魂の解釈〉—光の結婚式で、7 曲の最後の合唱曲が「あなたのための行進曲」です。

この歌は全南大生・金ジョンニユルさんが作曲し、黄皙暎さんが白基玩先生の詩〈メッピナリ〉の一部分を活かして完成。たった 1 年で「あなたのための行進曲」が、全国の集会、現場に鳴り響くことになったのです。それだけ歌の力が強力だったのでしょう。

「あなたのための行進曲」の故郷は光州です

1997 年に光州民主化運動記念日に制定されて以降も、二つの魂を讃える曲で始まって、光州の英霊を讃える曲となりました。李明博、朴槿恵政権の 10 年間、論争が絶えませんでした。文在寅大統領は光州 5.18 国立民主墓地を訪ね、二人の烈士の墓地に参拝します。そして「あなたのための行進曲」を、5.18

記念式の斉唱曲として国家報勲処が指定しています。

また世界の民主主義と人権に向う運動の歌として、香港、フィリピン、インド、タイ、パキスタン、カンボジアなど各地で、「あなたのための行進曲」(労働者讃歌、March for Love) が唄われています。



「先頭に起ちて 我 行かん 生ある者よ 続くのだ」

先に行った人たちがいました。この歌で魂を讃えたパク・キスン烈士とユン・サンウォン烈士がそうでしたし、1980 年に光州を守った光州市民がそうでしたし、その後も数十年間、民主と人権、平和と統一を念願して闘ったすべてがそうでしたし、この詩を書いた白基玩先生がそうでした。

民主と統一、進歩のために闘ったすべての烈士、名前も残さないで倒れていったすべての人々、そして白基玩先生の冥福を祈ります。

その方たちが残した熱い誓いを胸に、今、生きている私たちが、その道をひき継いでいくこと。そのことこそが、私たちの役割ではないかと思います。

映画になった韓国の情報機関・KCIA／独裁政権下の「南山」今も癒えぬ傷

朝日新聞 (2021 年 2 月 22 日) オピニオン編集部・桜井泉

韓国・ソウルの南山は、大都会にあって緑豊かな憩いの場として知られるが、かつて別の顔を持っていた。軍出身の朴正熙大統領の時代、ふもとに中央情報部 (KCIA) があったのだ。

北朝鮮や政敵の情報を集め、独裁政権の政治工作を担った機関だった。治安の総元締として反体制派の学生や知識人らを捕らえ拷問を加えた。「南山」と聞けば、みな震え上がった。

韓国映画「KCIA 南山の部長たち」が日本で公開されている。1979 年、KCIA トップが朴大統領を射殺した事件を題材に、権力内部の大統領への忠誠争いや葛藤を描いた。

KCIA と日本との関わりは深い。1973 年 8 月、朴政権に反対し、東京で事実上の亡命生活を送っていた金大中氏 (後の大統領) が、工作員によってホテルから白昼、拉致され、船で本国に送り返された。日本の主権侵害だ、として日韓の大きな外交問題となった。

あまり知られていないが、在日韓国人の若者らも KCIA の標的になった。70 年代、あこがれの母国で学んでいたところ、日本での活動を疑われ、北朝鮮

のスパイにでっち上げられた。その一人、千葉県に住む金元重さん (69) は、大学院生だった 1975 年、ソウルの寄宿舎から南山に連行された。「学園浸透間諜団」という名を付けられ、懲役 7 年の判決を受けた。

映画を見た金さんは、息が詰まるような展開に心臓を高鳴らせ、昔を思い出した。南山の地下室で 10 日ほど調べられ、拷問された。朴大統領の死は刑務所の構内放送で知った。「これで民主化が進む、と心の中で万歳を叫んだ」。1980 年、再び軍出身の全斗煥氏の独裁が始まり、民主化にはなお曲折があったのだが。

金さんは満期で釈放され、日本に戻った。再審無罪を勝ち取ったのは 2012 年だった。「私自身は獄中にいて祖国の民主化に貢献できなかった。でも、こんな映画をつくれる自由な世の中になった。そのことを喜びたい」

金大中氏が拉致された東京・飯田橋のホテルグランドパレスは、6 月末に営業を終える。時は流れた。だが、祖国に夢を抱き、青春まっただ中だった若者たちの心と体の傷は癒えない。